

令和2年度 細野小学校校内研究

I 研究主題

自ら学ぶ意欲をもち、確かな学力を身に付けた細野っ子の育成
～読み・書き・計算の基礎学力の定着を通して～

II 主題設定の理由

1 細野小児童の学力における実態から

(1) CRT 結果

【令和元年度 CRT 結果より】 令和元年1月実施

| 国語 | 1年 | 2年 | 3年 | 4年 | 5年 | 6年 | 算数 | 1年 | 2年 | 3年 | 4年 | 5年 | 6年 |
|-----|----|----|----|----|----|----|-----|----|----|----|----|----|----|
| 学年 | | | | | | | 学年 | | | | | | |
| 全国 | | | | | | | 全国 | | | | | | |
| 全国比 | | | | | | | 全国比 | | | | | | |

(2) 実態から見えてきたこと

- ① 言語についての知識・理解・技能の観点は、比較的得点率が高い。
- ② 関心・意欲・態度は意外と低い。
- ③ 国語の「書く」「読む」、算数の「考え方」の観点が低い。
- ③ 算数より国語の方が、できていない。

2 昨年度の取組の反省から

- ① 校時程に位置づけられていたレベルアップタイムの活用が不十分であった。
- ② 実践する内容の統一化が図られていなかった。

3 授業力向上を図る機会を活用

- ① 授業力向上委員の船木教諭の授業参観
- ② 初期研修の研究授業参観

III 研究の取組

- 1 主体的・対話的で深い学びの視点を生かし、授業改善の4つのポイントを意識した学習指導過程
- 2 前学年共通して実践できるレベルアップタイムの取組

IV 研究の実際

1 主体的・対話的で深い学びの視点を生かし、授業改善の4つのポイントを意識した学習指導過程

(1) 研究授業参観及び研修会

- ① 第2学年国語科 5月28日(木) 黒木愛菜教諭
- ② 第3学年社会科 6月25日(木) 下別府和子教諭
- ③ 第4学年算数科 7月13日(月) 田口正子教諭
- ④ 第5学年道德科 1月14日(木) 船木浩平教諭
- ⑤ 第3学年算数科 12月2日(水) 下別府和子教諭 (映像による授業研修会)
- ⑥ 第2学年道德科 1月21日(木) 黒木愛菜教諭

2 前学年共通して実践できるレベルアップタイムの取組

(1) 具体的な取組方法

- ① 14時30分から14時40分の10分間
- ② 事前に計画した **読み・書き・計算** の内容に1週間取り組む。

【読み・書き】

| 内 容 | 方 法 | 備 考 |
|--------------------|-----------------------------------|--------------------------------|
| 文字の練習 | ひらがなの練習 | |
| 漢字ドリルの視写 | ドリルの問題を読み、漢字を書く。 | 準備物が要らない。 |
| 聴書 | | ゴールとして取り入れたい。 |
| 教科書の本文の視写 | 段落や会話文などに気を付けて教科書に表記してあるように、視写する。 | 学習内容に直結している。 |
| 詩や短い文章の視写 | 縦マスを10マスにし、数えやすくする。 | 何文字書いたか分かりやすい。 児童が達成感を味わえる。 |
| 視写 | 時間を長くとる。 | |
| 新聞記事の視写 | 視写用紙に視写する。 | 新聞記事の用意 |
| 全国学力に主題されるような内容の音読 | 全国学力の問題文を音読する。 | 初見の文章に触れることができる。 |

【計算】

| 内 容 | 方 法 | 備 考 |
|---------|--------------------------|-----------------------|
| いくつといくつ | ○と△で、□ □は、○と△ | |
| 足し算 | プリント | |
| 引き算 | プリント | |
| マス計算 | 学年や実施回数に応じて、マスの数や内容を考える。 | マス計算の要領を身に付けさせることが必要。 |

10分間の使い方 (イメージ)

【漢字ドリル】

| 時間 | 活動内容 |
|----|---------|
| 1分 | 準備・スタート |
| 2 | 問題を読む |
| 3 | 書く |
| 4 | |
| 5 | |
| 6 | |
| 7 | |
| 8 | |
| 9 | 自己評価 |
| 10 | 片付け |

自己評価では、前回との比較ややり直しを行う。

【詩、新聞記事などの視写】

| 時間 | 活動内容 |
|----|-----------|
| 1分 | 準備・スタート |
| 2 | 視写 (6~7分) |
| 3 | |
| 4 | |
| 5 | |
| 6 | |
| 7 | |
| 8 | 自己評価 |
| 9 | |
| 10 | 片付け |

自己評価では、書けた文字数を記録する。

【全国学力や新聞記事】

| 時間 | 活動内容 |
|----|---------|
| 1分 | 準備・スタート |
| 2 | 音読 |
| 3 | |
| 4 | |
| 5 | |
| 6 | |
| 7 | |
| 8 | 模範音読 |
| 9 | 自己評価 |
| 10 | |
| 10 | 片付け |

模範音読の時間帯ややり方は目的により取り入れるようにする。

【計算】

| 時間 | 活動内容 |
|----|---------|
| 1分 | 準備・スタート |
| 2 | 計算 |
| 3 | |
| 4 | |
| 5 | |
| 6 | |
| 7 | |
| 8 | 自己評価 |
| 9 | |
| 10 | 片付け |

自己評価では、前回との比較を行う。

自己評価の方法

目的ごとの記録をし、ファイリングする。

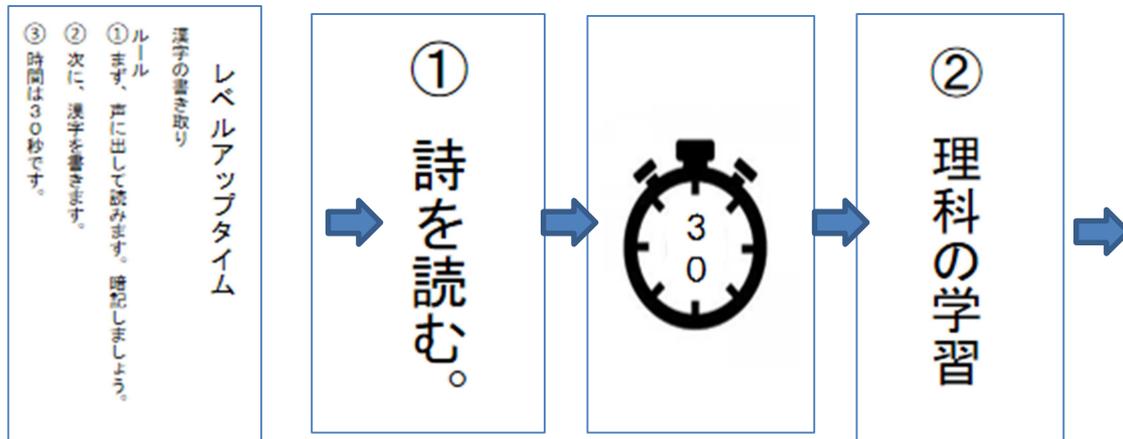
自己評価記録表 7月 名前 ()

| 日 | 曜日 | 視写 | | 計算のタイム | |
|---|----|----|--|--------|--|
| 1 | 水 | | | | |
| 2 | 木 | | | | |
| 3 | 金 | | | | |
| 4 | 土 | | | | |
| 5 | 日 | | | | |
| 6 | 月 | | | | |
| 7 | 火 | | | | |

3 活動例

(1) ICT を活用した漢字の取組

出題された問題を音読して、漢字を書く。



ルール確認 → 10秒間音読 → 30秒で漢字を書く。 → 次の問題 → 10題最後に答え合わせをする。

(2) 視写



制限時間内、教科書の本文を視写した。
1週間同じ内容に取り組んだ。



(3) 計算



担任が計時を行い、時間を意識させ取り組んだ。



集中して計算できている。

| | | | | | | | |
|------|-----|-----------|----|----|----|----|----|
| 64マス | かけ算 | (1)分(15)秒 | | | | | |
| × | 5 | 8 | 4 | 7 | 2 | 9 | 6 |
| 3 | 15 | 24 | 12 | 21 | 6 | 20 | 18 |
| 6 | 30 | 48 | 29 | 42 | 12 | 54 | 36 |
| 9 | 45 | 72 | 36 | 63 | 18 | 81 | 54 |
| 2 | 10 | 16 | 8 | 14 | 4 | 18 | 12 |
| 7 | 35 | 56 | 28 | 49 | 14 | 63 | 42 |
| 4 | 20 | 32 | 16 | 28 | 8 | 36 | 24 |
| 8 | 40 | 64 | 32 | 56 | 16 | 72 | 48 |
| 5 | 25 | 40 | 20 | 35 | 10 | 45 | 30 |

64マス かけ算 (-1)分(15)秒

学年や個に応じて
64マス 100マス
に挑戦している。

V 成果と課題

(1) 成果

- 全校共通の実践ができた。
- レベルアップを継続的に行ったことで、習慣化された。
- 授業時間以外での学習の時間が確保できた。
- 児童の集中力が付いた。
- 児童は、意欲的に取り組んだ。(児童対象のアンケートから)
- 漢字、マス計算、テスト対策など計画的に進めることができた。
- (レベルアップ用の)教材作りの時間が確保された。

(2) 課題

- 研究授業は計画されていたが、コロナの影響もあり、参観する機会が少なかった。
- 自己採点や取組の見届けが難しかった。
- 次年度もレベルアップに取り組むのならば、今年取り組んだ内容の引き継ぎが必要ではないか。
- 読み・書き・計算と内容が広がったので、精選が必要である。